

■プログラム名

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

■現状及び展望

本プログラムは、鉱物・エネルギー資源開発とそれに付随する地球環境問題に関わる分野（地球資源工学分野）で、日本とASEANの将来を支える地球資源工学分野のグローバル人材の養成を目指しており、質保証を伴う3つの学部・大学院ビルドアップ（積上式）協働教育プログラム（実践経験を積む「国際インターシップ」、学生間交流やモビリティ強化を図る「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」）を、九州大学と国内外の連携大学とともに実施している。本年度は、1月にバンコク（タイ）で開催したキックオフセミナーを皮切りに、プログラムを本格始動した。本プログラムの導入部をなす「国際インターシップ」は、学部3年生を対象に、8月に日本においてサマースクールとして開催した。「スクールオンザムーブ」は、修士課程1年生を対象に、9月にインドネシア、11月にタイ、12月に日本で開催した。「国際インターシップ」、「スクールオンザムーブ」の内容は、ともに専門分野に関する座学やフィールド教育で構成される。平成24～25年度に本プログラムに参加した日本とASEANの学生は既に150名を超える。本プログラムにおける連携大学は、海外では、タイのチュラロンコン大学、インドネシアのバンドン工科大学、ガジャマダ大学、フィリピンのフィリピン大学、マレーシアのマレーシア科学大学、ベトナムのホーチミン市工科大学、カンボジアのカンボジア市工科大学、国内では、早稲田大学、北海道大学であり、現状では、各大学間におけるプログラム実施に係る協定案作りを終えている。「大学院ダブルディグリー」については、九州大学とチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学間での実施案を現在も準備中であり、次年度からの本格始動を目指す。

■問題点及び制度上の改正希望

九州大学での本プログラムの実施における問題点としては、「大学院ダブルディグリー」における単位互換制度の協定作りにおいて、想定以上に時間を要している。フィールド教育の実施では、天候に左右されるため、大幅なスケジュールの変更を余儀なくされるケースもあり、その場合、経費の利用に関する事務処理がかなり複雑になり時間を要する。ビザ取得に際しても、時間を要するため、本年度3回実施した「スクールオンザムーブ」では、次のプログラムまでの期間が短い場合に、時間的余裕が無い。などが挙げられる。

制度上の改正点としては、取得した単位の認定を行う際、国内の大学の諸事情によって対応せざるを得なかったため、次年度はこの点を改良する予定である。

■学生交流数

交流方向	平成23年度	平成24年度	平成25年度(※)
受入	-	0	27
派遣	-	15	52

(※) 予定含む